

2025 年 9 月 7 日 市川福音キリスト教会（詩篇 139 篇 13～16 節）

神の栄光を現わす人生

I コリント 6 章 12～20 節

はじめに

二週間留守にしました。先々週は白石剛史先生がマタイ 26 章 16 節から「永遠を心に」と題して、今週は大和昌平先生が伝道者の書 3 章から「聖書の空と仏教の空」と題して語ってくださいました。それぞれ深く教えられたと思います。今朝は I コリントに戻ります。

1、 「キリスト者の自由」を勘違いしてはいけない（12 節）

12 節『すべてのことが私には許されている』と言いますが、すべてが益になるわけではありません。『すべてのことが私には許されている』と言いますが、私はどんなことにも支配されません。』

原文にはカッコはありません。脚注にもあるように「と言いますが」は日本語訳の補足です。直訳すると「すべてのことが私には許されている。しかし、すべてが益になるわけではありません。すべてのことが私には許されている。しかし、私はどんなことにも支配されません。」です。「すべてのことが私には許されている」という言葉は 10 章 23 節にも出てきます。新改訳 2017 はこれをコリントの教会の人々の常套句と理解してカッコに入れています。第 3 版にはカッコはありませんでしたし、聖書協会共同訳などにもありません。「すべてのことが私には許されている」がコリントの人々の常套句だった可能性は高いと思いますが、これはパウロの立場でもあります。ですからパウロがコリントの人々の常套句をふまえて語っているということで、原文の通り、「すべてのことが私には許されている。しかし、すべてが益になるわけではありません。すべてのことが私には許されている。しかし、私はどんなことにも支配されません。」でよいと思います。

パウロは「キリスト者の自由」を教えました。しかし、コリントの人々はそれを勝手に解釈して「我々は何をしてもよいのだ」と言い、この後に出てくる「不品行」についても、自分に都合よく「すべてのことが私には許されている」と言っていたのでしょう。彼らは罪に、性的な不品行の誘惑に支配されていたのですが、「すべてのことが私には許されている」と言い続けていました。それに対してパウロは言うのです。「すべてのことが私には許されてい

る。しかし、すべてが益になるわけではありません。すべてのことが私には許されている。しかし、私はどんなことにも支配されません。」

13 節『「食物は腹のためにあり、腹は食物のためにある」と言いますが、神は、そのどちらも滅ぼされます。からだは淫らな行いのためではなく、主のためにあり、主はからだのためにおられるのです。』

ここでも新改訳 2017 は、カッコと「と言いますが」を補足しました。「食物は腹のためにあり、腹は食物のためにある」は、何でも食べて楽しめ、というような意味です。パウロも律法の食物規程から自由でしたから、同じ考えでした。しかし、コリントの人々は、この言葉を性的に淫らな関係を肯定する言葉として使っていたようです。食欲と性欲はともに神が与え給うたものですが、暴飲暴食で健康を損なったり、淫らな不品行に浸る誘惑もあります。パウロは言うのです。「食物は腹のためにあり、腹は食物のためにある」と、そんな放縦をしていると、食物も腹も滅びるぞ、と。そして言います。あなたがたの「からだ」(ソーマ)は淫らな行いのためではなく、主のためにあるのだ、と。さらにパウロは「食物は腹のためにあり、腹は食物のためにある」を言い換えて、「からだは主のためにあり、主はからだのためにおられるのです」と、からだ(ソーマ)と主に話題を移し、いよいよ本題に入ります。

2、 あなた方は神のからだ(ソーマ)(14～20 節)

14 節「神は主(キリスト)をよみがえらせましたが、その御力によって私たちも、よみがえらせてくださいます。」

「からだは淫らな行いのためではなく、主のためにあり、主はからだのためにおられるのです」と語ったパウロは、キリストのからだである教会にテーマを移してゆきます。

私たちの罪はキリストの十字架と共に滅ぼされ、私たちはよみがえられたキリストと共に新しく生まれました。私たちは神に背いている罪を告白し、悔い改め、イエス・キリストを信じ、神の恵みによって救われました。

ここからパウロは、キリストのからだに加えられたクリスチャンについて、三つのことを語ります。6 章には、信仰がボンヤリしているコリントの教会の人々に対して「あなたがたは知らないのですか」という言葉が 6 回も繰り返されますが、その後半の三回が、パウロの 3 つのポイントと重なります。

①15 節「あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだ(ソーマ)はキリスト(のからだ)の一部なのです。それなのに、キリスト(のからだ)の一部を取って、遊女(のからだ)の一部とするのですか。そんなことがあって

はなりません。」

第一に、あなたがたはキリストのからだの一部である。

インマヌエル、神さまが共にいて下さるということとは恵みですが、恵みはさらに大きく、深く、神との一体を意味しています。あなたがたコリントの教会の信徒は、キリストのからだの一部なのだ、とパウロは言います。ここには「のからだ」が補われていて、原文は、キリストの一部、遊女の一部です。精進してキリストのからだの一部らしくならなければいけない、というのではないのです。あなたがたは、もう早、すでにキリストのからだの一部なのだということです。「それなのに、キリストのからだの一部を取って、遊女のからだの一部とするのですか。そんなことがあってはなりません。」

②16～18節「それとも、あなたがたは知らないのですか。遊女と交わる者は、彼女と一つのからだ（ソーマ）になります。『ふたりは一体（一つのサルクス）となる』と言われているからです。しかし、主と交わる者は、主と一つの霊になるのです。」

第二のポイントは、主と交わる者は、主と一つの霊になる、です。

二人は一体となるというところでは、一つのサルクス（肉）という言葉が使われていますが、「主と交わる者は、主と一つの霊となる」のです。

売春、買春という淫らな行いは、古今東西、どこにもある罪です。その背景には搾取と格差、貧困や戦争なども関わるわけですが、コリントの場合は、享楽、淫らな行いです。それが戒められます。

18節「淫らな行いを避けなさい。人が犯す罪はすべて、からだの外のものです。しかし、淫らなことを行う者は自分のからだに対して罪を犯すのです。」

「人が犯す罪はすべて、からだの外のものです」とあります。6章では9節から10節に、偶像を拝むとか酒におぼれる、奪い取るなどの罪が列挙されています。これはらはからだの外にあります。しかし、からだの一部である者が淫らなことを行うなら、それは自分のからだに対して罪を犯すことになるというのです。

日本でも敗戦までは公娼、つまり公に認められた遊女がいました。性の倫理はお粗末なものでした。戦前の教会で婦人矯風会や救世軍は公娼廃止に努めました。公娼はなくなりましたが、淫らな行いがなくなることはありません。

「淫らな行いを避けなさい」は、習慣的行為を表す命令形で書かれており、「淫らな行いを避け続けなさい」というニュアンスです。

③19節「あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。」

第三のポイントは、あなたがたは聖霊の宮、です。

あなた方は、キリストの一部であり、主と一つの霊となり、聖霊の宮であるというのです。

3章16節にも「あなたがたは、自分が神の宮であり、神の御霊が自分のうちに住んでおられることを知らないのですか。」とありました。3章ではコリントの教会が神の宮と言われていましたが、ここではコリントの信徒一人ひとりが聖霊の宮と言われます。

3章でも言いましたが、「宮」(ナオス)は神殿の全体ではなく、契約の箱が置かれた至聖所を表すことばです。私たちは旧約聖書において神の幕屋、そこから発展した神殿がどれほど聖なる施設で、かけがえのないものであるかを学んでいます。それはほかでもないキリストのからだの一部となり、主と一つの霊となった私たちなのです。

3、市川福音キリスト教会の兄弟姉妹へ(20節)

6章の締めくくりの言葉20節を私たちへの言葉として聴きましょう。

20節「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって神の栄光を現わしなさい。」

私たちは自分は自分のものだと思っています。自分の財産も自分の時間も、自分の過去も、自分の将来も自分のものであると思っています。これが罪の性質であり古い私たちです。神に造られたからだであることを忘れ、神から命を与えられ生かされていることを感謝せず、神に背いたままで、神を神としない。そんな私たちはどうしたら神に立ち返る、これは人として一番大切なことです。優先順位が大切です。勉強をすること、仕事をする、家庭を築き守ること、後身を育てること、どれも大切です。しかし、一番大切なことは、神を神とすることです。

神に背をむけて来た罪を認め、悔い改め、すでに独り子イエス・キリストのいのちをもって代価を払い、贖ってくださった神を信じることにより、恵みによって救われるのです。

そうすると、自分のからだをもって神を汚すのではなく、自分のからだをもって自分の栄光を現わすのではなく、自分のからだをもって神の栄光を現す生涯を過ごすことができるのです。「食べるにも飲むにも、何をするにも、すべて神の栄光を現すためにしなさい」(Iコリ10章31節)です。

本日は、会堂借入返済の完了において神の栄光を現すことができたことを感謝いたします。